

erudio 19

国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター通信 2013.11

Iwate University : University Education Center

Contents

- 2 ごあいさつ
- 3 センター近況報告
- 4 運営委員会
- 5 入試部門
- 6 全学共通教育部門
- 7 教育改善部門
- 8 専門教育等連携部門
- 10 学生支援部門
- 12 キャリア支援部門
- 14 委員会及部門会議名簿



ごあいさつ

まつばやし くにひろ

松林 城弘

大学教育総合センター 副センター長
(教授・人文社会科学部専任担当)

前副センター長の長野俊一先生が人文社会科学部長にご就任されるにあたり、急きょ4月から後任を仰せつかっています。

就任から半年が過ぎましたが、本センターが抱える業務量の多さに日々驚くばかりです。あらためて本センターの業務を確認すると、

- ①全学共通教育を充実させるとともに、専門教育との連携を図る。
- ②組織的な教育改善活動により教育内容・教育方法の高度化を推進する。
- ③入口(入試・入学)から出口(卒業・就職・進学)までの連携により就学指導と学生支援を充実させる。
- ④大学教育・学生支援に関する情報収集と調査研究を進める。

というように4業務が中心になっており、具体的には、「入試部門」「全学共通教育部門」「教育改善部門」「専門教育等連携部門」「学生支援部門」「キャリア支援部門」といった6部門が役割を分担して各学部と連携をとりながらセンターの業務を遂行しています。岩手大生約6,000人の入学から卒業(修了)までの修学や生活を支援する全学組織であるといえます。

こんなに大きくて重要な組織であるにもかかわらず、その業務のコーディネーターや企画運営に携わる専任教員は僅か2名で事務職員も決して多いとはいえません。また、部門長を始め各学部から選出された部門委員も学部の多忙な業務を抱えながらの兼務です。

上記①から④の業務を支えるには余りにも少なすぎるスタッフと言えるでしょう。専任教員や事務職員の増員や兼務教員の業務支援など今後早急に対策が望まれる所以です。

私個人としては、4月以降、高等教育や高大連携に関係するシンポジウム・研修会・ワークショップなどに参加する機会に恵まれ、これまであまり知らなかった分野を垣間見ることができました。10月以降も、「教育の質保証」や「PBL (Project-Based Learning)」などCOCに関わる教育フォーラムにも参加する予定で、どのような話が聞けるか楽しみにしているところです。残念ながら、こうした研修会で得られた知見については、今のところセンターの業務に活かすところまでに至っておらず、力不足を痛感しているところです。

手元に大教センター編集・発行の「平成25年度 岩手大学 学位授与の方針教育課程編成・実施の方針 入学者受入れの方針」と題した230ページに及ぶ冊子があります。センター専任教員を中心として各学部教職員の努力の結果仕上がった冊子です。入口から出口までを支える方針として、我々の教育の方向性を示してくれます。これら3つのポリシーや上述した①～④のセンター業務について、私自身もっと研鑽を積みながら少しでもセンターの業務に貢献できればと考えています。最後になりますが、岩手大学教職員皆様の大教センター業務への一層のご理解とご支援を賜りますようお願いしてご挨拶とさせていただきます。

平成25年度 岩手大学 学位授与の方針 教育課程編成・実施の方針 入学者受入れの方針

平成24年度に各学部学科課程等で策定した3つのポリシー(学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)を1冊にまとめました。学内の先生方には1冊ずつ配布したのですが、委員会等で必要な場合にはお送りいたしますので、お知らせください。現時点では、それぞれ「印刷ミス(編集の過程でタイプミスが入ってしまったものを含む)」もありますが、すべての学部の「3つのポリシー」が一度に確認できますので、その点では便利です。今年度の年度計画にこれらのポリシーの見直しがありますので、ぜひ、ご活用ください。



センター近況報告

専任教員 江本 理恵

事務補佐員・技術補佐員の採用

現在、大学教育総合センター（学生センターA棟3階）に、1月から事務補佐員の藤澤久仁子さん、4月から技術補佐員の寿千佳さんが勤務しています。藤澤さんはセンターの業務に関することの全般の補佐を担当しますので、例えば、「基礎ゼミの教員用の資料が欲しい」などの要件がありましたらお声がけください。また、寿さんはシステム関係（G32教室等の学生センター棟のコンピュータ教室、アイアシスタントなど）を担当しますので、システム関係、例えば「学生センター棟のコンピュータ教室を使いたい」、「アイアシ



スタントの使い方を知りたい」などありましたら、寿さんにお声がけください。今まで、人員が十分でなく、先生方のご要望に十分に対応できなかったのですが、ここ数ヶ月で体制が整ってきました。様々な案件についてできる限り対応いたしますので、お気軽に大学教育総合センターまでご相談ください。お待ちしております。

「地(知)の拠点整備事業」について

岩手大学では、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に応募した「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」が採択され、「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に取り組み始めました。事業全体は「COC推進委員会」にて統括されるのですが、「教育」に関する事業については、大学教育総合センターも主体的に関わることになります。

現在、COC事業を担当する教員、技術補佐員の公募を行っています。COC事業を担当する事務補佐員の八木橋さんはすでに勤務を始めており、来年度までには体制が整う予定です。

『学修支援室(Learning Support Room)の開設』

4月から図書館の2階に「学修支援室(Learning Support Room)」を新規開設しました。学期中の平日15:00～19:00の間、専任の相談員が学生からの学習相談に応じます。岩手大学を退職された先生方のご協力をいただくことによって、従来の「未履修の科目等があって授業についていけない学生のための主に数学・理科の学習支援」にとどまらず、さらに自分の力を伸ばしたい学生への指導や、研究、進路についての相談にも応じられる体制を整えることができました。

このような支援室に学生を巻き込む(学生による相談員等を組織化する)ことで活動を活発化させている他大学の事例が多く見られるので、本学でもその方向も含めて、今後の方策を考えていきたいと思ひます。

学び方を 相談してみよう!

みんな、高校の時に勉強を勉強しただけで、私、勉強してない...

このままだったらと大学生活を逃していいのだろうか？

この科目、どうやって見くらんたろう？

えっ！「物理」って何なの？ っつそよ！

「自分で勉強しなさい」って、どうすればいいの？

授業の内容が、さっぱりわからぬ...

いつか復習してみたいなあ。

「レポート」の書き方がわからない！

岩手大学では、学生のみなさんの「学び」を支援するために、学修支援室(Learning Support Room)を設置しています。学び方について相談してみたい学生さん、図書館の2Fのサポートデスク(Learning Support Desk)にてお待ちしております。

問い合わせ先：
学生センターA棟1F 学務課教務企画グループ (2番窓口)

大学教育総合センター長 高畑 義人

カリキュラム・マップの確認と3つのポリシー冊子体の配布

各学部で作成した「カリキュラム・マップ」を確認し、今後相互に参考にしながら、必要に応じて改訂していくこととしました。「カリキュラム・マップ」の学生への周知については、ホームページやアイアシスタントなどのWeb上での公開や、紙媒体での配布等の意見が出ました。審議の結果、基本的には「履修の手引き」に掲載せず、Web上での公開と紙媒体での配布が望ましいとなりましたが、予算的な裏付けも必要になることから今後検討することとしました。

昨年度策定した「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」、それにすでに策定してある「アドミッション・ポリシー」を加えた3つポリシーと、「カリキュラム・チェックリスト」及び「カリキュラム・マップ」を加えたものを冊子体にまとめ、教員等に配布することとしました。

非正規生に係る「授業料の未納除籍」に関する内規について

非正規性に関して、授業料未納による除籍の例がいくつかの学部で見られるため、非正規性については、授業料未納除籍の時期を正規生より早くすることについて審議が行われました。その結果、授業料の納入期限を4月入学の場合は5月末日、10月入学の場合は11月末日とすることが決定されました。

成績評価比率の共有化

各科目の「成績評価比率」の開示については、すでにアイアシスタントで開示(教職員限定)していますが、平成25年度の年度計画の中で、成績ガイドラインに基づく成績評価の実施状況を各学部で組織的に確認することとなっています。成績評価比率の一層の共有化を図るため、各学部の教務委員会等で成績評価比率の印刷資料を配布し、各学科・課程等で組織的に成績評価について確認し、成績評価比率について極端な科目等があれば、意見交換し成績評価について改善していくこととしました。

なお、開示する成績評価比率の資料において、科目担当者名を公表することについて意見が出され、今後検討することとしました。

「地(知)の拠点整備事業(COC)」について

本整備事業の申請に伴う共通教育科目の関わりについて審議しました。カリキュラム上に、地域の歴史、文化、産業、特色等に関する科目を設定し、履修する人数を実績として報告する必要があることから、共通教育科目の中にも「地域に関する科目」を用意し、さらに履修人数を確保する必要がある点について確認しました。一方、このことに関してPBL科目の運営母体や、責任教員の選定や評価基準の設定等、実行上、検討すべき課題が多いのではないかと意見があり、採択された時点で実施に向けて具体的な方法や課題について検討していくこととしました。

8月に本整備事業が採択され、それに伴い設置された「COC推進委員会」から、特任教員採用に係る選考について、大学教育総合センターに依頼があり、教員選考委員会の委員について審議し、本選考委員会の設置が了承されました。

その他

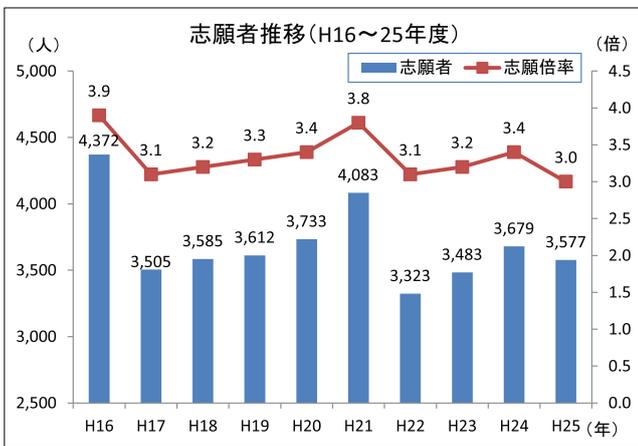
教育研究支援施設等の見直しに伴い、設置される「教育推進機構」について、業務、部門等について意見交換しました。それに伴い、共通教育等を主に担当する教員の補充を昨年度に引き続き要望していくことを確認しました。平成25年度FD研修会を8月22～23日に「これからの大学評価の在り方と3つのポリシー」というテーマで開催することを決定し、4学部教員のほか「いわて高等教育コンソーシアム」に所属する教員も参加し、盛会のうちに終了しました。平成25年度高大連携ウインターセッションに関しては、12月25～27日に「知(地)は力 - 地域と大学 - 」というテーマで開催する予定で、最終プログラムを決定しました。



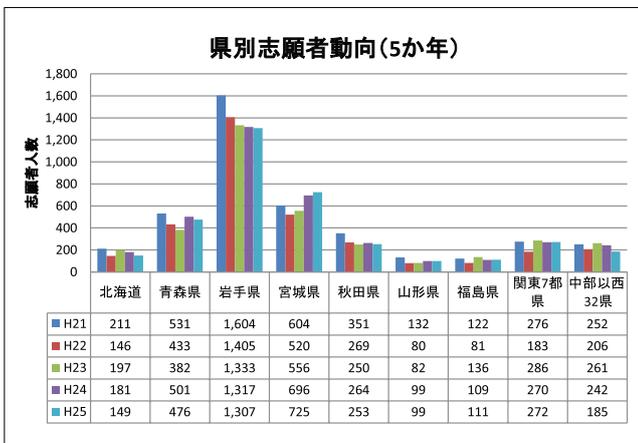
専任教員 岡本 崇宅

平成25年度入試

今年度の入試は、総志願者数3,577人となり、増減比では3年ぶりの志願者減となった。(前年比102人減、マイナス2.8%)16年度以降10年間の志願者数では下位4番目の年度となった。減少傾向となった一番の要因は、大学入試センター試験の全体平均が文系・理系ともに大幅ダウンとなる一方で、本学の難化予測があり地元を中心に各高等学校で出願回避となったようである。さらに全体での志願倍率では、10年で最も易化した(16年度3.9倍→今年度3.0倍へ)結果となった。



県別の志願者状況でも、地元岩手県(10人減)や北海道(32人減)は引き続き減少。昨年度増加に転じた青森県(25人減)、秋田県(11人減)の2県も減少に転じた。そんな中3年連続増加しているのが宮城県(29人増)であった。



東日本大震災から2年が経過し南東北地区の山形県(増減無し)、福島県(2人増)、関東7都県(2人増)からの志願者については減少に歯止めが掛かった。一方、中部以西はこの5年間で初めて200人台を割り込み、志

願者大幅減(57人減)となった。全体志願者減(102人減)のうち55.9%を占める結果となった。中部以西は、年度により出願してくる高校が一定しないこともあり、今後、高校訪問に加え、会場型説明会への参加も多用したい。

平成25年度前期中の高校訪問・会場ガイダンス等

25年度も4月以降北海道、青森、秋田、岩手、宮城、東京、静岡、愛知の各県において会場ガイダンスを実施(業者主催に参加)するとともに、高校訪問を実施している。今年度は平成26年度入試が高等学校での旧課程最終年度の学年(高校内では、「後がない入試」、「浪人できない入試」と指導しているとのこと)であり、例年以上に各高校とも指導に力を入れている。そのため志願・受験予定大学についての受験指導の考え方などを進路教員等と情報交換を行なうとともに、本学の募集広報に努めている。昨年同様に高校教員が知りたい岩手大学の情報では、出口保証としての就職率・進学率が一番であった。また、昨年にはなかった質問では、各学部の研究、教育内容についても声が寄せられた。

平成25年度入試分析結果報告会実施

7月10日に標記の報告会を開催した。この報告会では、今年度の大学入試センター試験実施後の生徒の出願行動について進研模試のデータに基づいて岩手大学の入試分析を行った。また昨年同様に高校教員のみが見ている岩手大学を含む国立大学入試分析データについても開示報告を行った。また前期中の高校訪問での各高校進路部長等の岩手大学評価等について報告を行った。

多数のご出席を頂きました。ここに御礼を申し上げますとともに今後もさらに各先生方にご利用、ご活用いただける情報提供に努める所存です。

全学共通教育部門

部門長 横山 英信

全学共通教育体制の喫緊の課題

全学共通教育部門長として、現在の全学共通教育をめぐる喫緊の課題は、各学部による実施責任の一端を担ってもらうことであると感じている。全学共通教育の科目開設には11の分科会が責任を負っているが、この体制は各分科会代表と一部の世話役的な教員の個人的な厚意によって何とか支えられているのが現状であ

る。各分科会は学部横断的に作られているが、それには利点がある一方で、各学部に分散している所属教員間の意思疎通が図られにくく、このことが一部の教員が長期に亘ってとりまとめの任に当たらざるを得ない状況を生む要因になっている。少なくとも、分科会代表については、各学部を担当分科会を割り当て、学部の責任で選出することが必要であるように考えている。

新分科会代表から一言



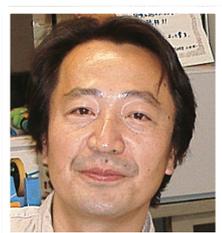
ごあいさつ

なりた しんや
成田 晋也

科学技術分科会代表
(准教授・工学部専任担当)

今年度「科学技術」分科会の代表を務めることとなりました。この分科会では、「人間と自然」の中で開設されている「くらしと科学技術」を担当しています。講義では、自然現象の基本法則の解説や、それを応用した様々な分野の最先端技術開発について紹介しています。学生には、専門にとらわれず、身の回りの技術に関心をもってもらい、その背景にある基本原理の基、それがどのように発展してきたかを、一般教養の一つとして身につけてもらいたいと考えています。また、科学技術の発展によって広がる夢のある未来を伝えるような、そういう場を提供できればと思っています。

ったものでした。年月が流れ、場所も立場も変わり、いま大学は学生にやさしすぎるのが気掛かりです。手取り足取り多くを与えたとしても大きく羽ばたくことができないのではないかと心配になり、折にふれて「大学は自分で勉強するところ」と指導しています。そのことを理解し、行動できる自立した学生をひとりでも多く育てることが我々に与えられた重要な務めと考えています。



ごあいさつ

さの ひろあき
佐野 宏明

環境分科会代表
(教授・農学部専任担当)

私の大学入学当時、初めの2年間は一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門基礎科目を教養部で勉強することになっていました。それぞれの科目に最低必要単位数が決められていて、1単位でも足りなければ教養部を修了できず、それは学部の専門教育を受けられないことを意味するものでした。その頃、ある全国紙地方版の連載で教養部を修了できないまま大学を去らなければならない学生たちが取り上げられていて、彼らの心情を察すると大学は厳しすぎると胸が痛くな



ごあいさつ

ごりょう まさのぶ
御領 政信

生物の世界分科会代表
(教授・農学部専任担当)

本年4月から「生物の世界」分科会代表を仰せつかっていますが、代表者を引き受けたものの何をなすべきなのか、わからないのが現状です。全学共通教育のイメージは、一般教育科目の授業ということで、専門科目に比較して軽んじられてきた経緯があるのではないかと思います。高校を卒業して、これまであまりやってはこなかったが、社会人として必要な科目ではないかと思いますが、専門科目を早くから学びたいのということとギャップがあるのではないのでしょうか。本来は幅広い教養を身につけて欲しいのですが、なかなかその意図をくみ取れず、何となく授業を受けているのではないのでしょうか。意外と社会人になってから役に立ったという科目もありそうな気がします。青春まっただ中では気づけないことでしょうか。生物という学科目は、非常に幅広い領域をカバーしなければならず、進歩するスピードも早いですが、最新情報を理解して頂けたらと思っています。

*菅野先生、本田先生については、次号で紹介します。

教育改善部門

専任教員 江本 理恵

全学共通教育授業公開

平成25年6月3日～6月7日の間、全学共通教育のすべての授業を公開する「授業公開」を行いました。今回は、学部で開講されている専門教育科目のいくつかの科目も「授業公開」の対象科目として加わるようになりました。

参観者の方々からは、「先生の熱意と学生の態度との温度差には少々残念に思いましたが、結果的には、楽しませて頂きました。授業の進め方には、工夫を感じ、とても興味深かったです。」「この授業公開が、もし一般市民のためである、ということであれば、もう少し宣伝、あるいは、詳しい情報などあればもっと気軽に来られるのでは。」などのご意見をいただきました。

FD研修会

平成25年8月22日・23日と、合宿形式のFD研修会を行いました。今年度のテーマは「これからの大学評価の在り方と3つのポリシー」で、主に「認証評価」について学び、今後の大学のあり方を考える研修会となりました。いわて高等教育コンソーシアムとの共催で、岩手大学から25名、岩手医科大学から4名、富士大学から4名、盛岡大学から1名の参加者がいました。

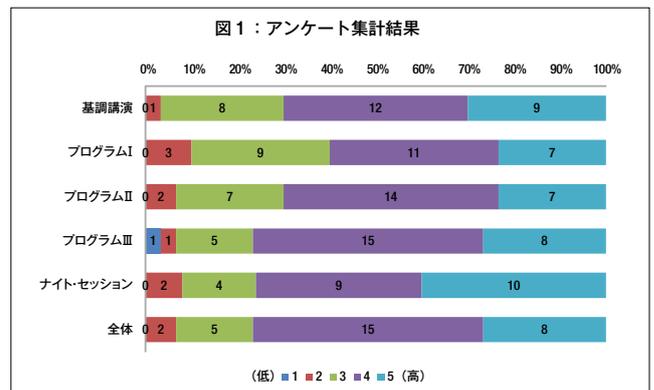
講演では、「これからの大学評価」というタイトルで、大阪大学准教授の齊藤先生にお話をいただきました。齊藤先生は大学評価・学位授与機構時代に第一期認証評価の設計に携わった経歴をお持ちで、どのような社会情勢の下、どのような思想の下に評価基準等が設計されたかをお話いただき、その後のワークショップ等でも、ご意見をいただくことができました。

ワークショップでは、『大学機関別認証評価「大学評価基準」』を学ぶプログラムⅠ、『評価に左右されない大学』を考えるプログラムⅡ、『学位授与の方針』をブラッシュアップするプログラムⅢの3つのプログラムが行われました。年齢、性別、専門が多様な教員が集まったのグループワークで、社会情勢や大学が置かれている状況、社会から要求されていること等を確認しながら、今後の大学のあり方について議論しました。また、各学部学科等で策定した『学位授与の方針』の見直しを行いました。

ナイトセッションでは、岩手医科大学の佐藤先生と盛岡大学の筑後先生から、それぞれの大学で取り組んでおられる教育改革についてお話をいただきました。

佐藤先生は、「プロフェッショナルリズム教育」について、日本古来の「武士道」と比較しながら、その必要性について説明されました。筑後先生は、富士大学で策定した「学士力」の達成状況について、ルーブリックを策定して卒業研究で評価している取り組みについて説明されました。どちらの話題も大変興味深く、今回のプログラムの中で最も高い評価を得る結果となりました。

来年度以降もいわて高等教育コンソーシアムと連携しての研修会を企画・実施したいと考えております。また、合宿以外の形での研修も多数ご案内しております。みなさまのご参加をお待ちしております。



専門教育等連携部門

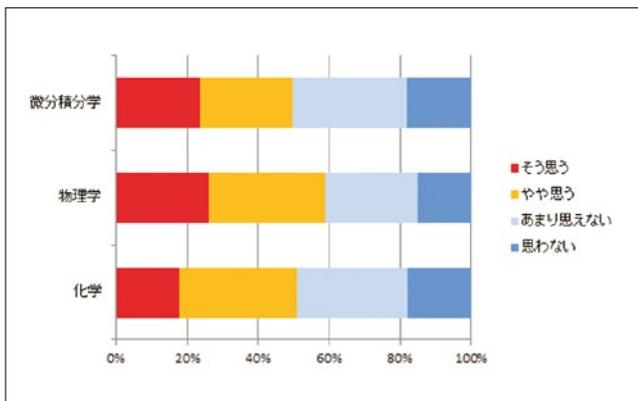
部門長 松川 倫明

1. 専門基礎教育の充実に向けた検討

本部門では、専門基礎教育の充実に向けた検討を行うために、工学部学生を対象に専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関する意識調査を昨年度に引き続き7月に実施しました。その集計結果の一部を報告させていただきます。「全学共通教育科目の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

(選択肢：①そう思う ②やや思う ③あまり思えない ④そう思わない)

という問いに対して、以下に示すように微分積分学Ⅰは、工学部学生(回答総数353)の約半数(49.6%)が、肯定的な回答をしています。

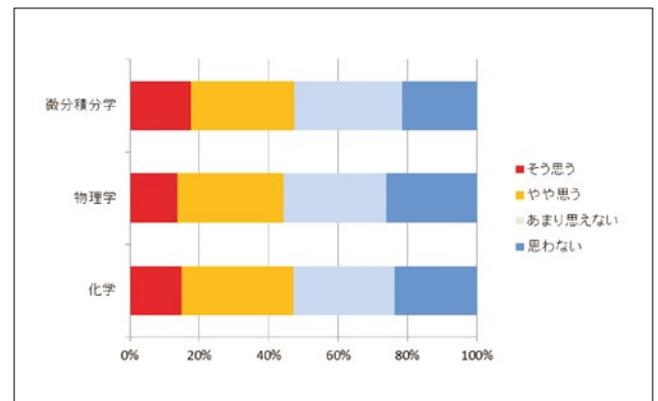


微分積分学Ⅰの学科別のデータを紹介しますと、①マテリアル工学科56%、②応用化学・生命工学科53%、③再履修クラス50%が上位に位置しています。また、物理学(または物理学Ⅰ)の学科別のデータは、①応用化学・生命工学科68%、②機械システム工学科58%、化学(または化学Ⅰ)の学科別のデータは、①社会環境工学科57%、②応用化学・生命工学科及びマテリアル工学科50%です。(理科の科目が後期開講の電気電子・情報システム工学科は除いてあります)

授業担当教員の因子を無視すると、習熟度別のクラス編成を希望する比率の高い科目と学科の性格は相関があるように思えます。例えば、マテリアル工学科や応用化学・生命工学科は、学科の性格(数学を頻繁に使う学科という印象はあまりない)を考慮するとあまり数学が得意でない学生が比較的多く入学しており、そのことが恐らくアンケート結果に反映していると予想されます。同様に、応用化学・生命工学科は化学を

勉強する学科という印象が強く化学の学力が高い学生は多いが、物理学を高校で深く勉強してくる学生は少ない、または物理の学力の高い学生は少ないと考えられるので、物理学の比率が高くなったと推測されます。前年度と比較すると、物理学の比率が60%に近いことが今年度の特徴であり、理由はよくわかりませんが、物理Ⅱの未履修者が比較的多いことと関係があるかもしれません。(例えば応用化学・生命工学科の物理Ⅱの未履修者が17名である)

次に「あなたが受講している専門基礎科目の習熟度別のクラス編成に対して、センター試験の成績を利用して実施することについて適当であると思いますか？(ただし、推薦入試の入学者はセンター試験の成績を口頭試問や調査書等の成績と読み替えてください。)」という問いに対する結果を以下に示します。



科目の種類に依存せず、4割以上の学生が肯定的な回答をしている一方、5割超の学生が否定的な意見もっています。特に、センター試験以外に個別試験の結果を活用することなど適正に学力を評価することを要望していました。また、このアンケートの自由記載欄において、現在の英語科目の習熟度別クラス編成に関して興味深い意見がありました。現在の習熟度別クラス編成は、クラスにより負担が大きく公平性に欠ける、初級クラスでも十分難しい等です。このような意見は昨年度もありました。

このアンケート結果については各学部選出の部門会議委員を通じて情報提供がなされる予定です。

また、この結果を受けて部門会議では来年度の工学部新入生に対し数学の学力診断を目的にしたプレースメントテストを実施し、補習クラスの抽出に利用することを検討しています。

専門教育等連携部門

2. 他大学における専門基礎教育の具体的取り組みについての調査報告

(1) 金沢工業大学・数理工教育研究センターの訪問調査

金沢工大は、2013大学ランキング・教育分野第二位であり、これまで大学教育改革支援プログラム（いわゆるGP）に20件（総額7億）採択されている。平成25年9月19日に金沢工業大学数理工教育研究センターを訪問して、センター長の青木克比古先生から専門基礎教育の取り組みについて、資料を基に詳細な説明を受けるとともに、金沢工大が教育に熱心な理由、入試制度及び専門基礎教育等について意見交換を行った。また、24時間利用可能な自習室、12階建ての図書館（最上階は女性限定のスペース）、工作室（夢考房）など特徴的な教育研究施設を見学した。（学生主体の取り組みの結果、2013年のロボコンの世界大会で優勝した。）

入学者は一般入試6割、推薦・AO入試4割の比率であり、学力分布は二極化しており、特に文理融合型の学部では数学を履修してこない学生もいるとのことであった。専門基礎教育を担当する数理工教育研究センターは教員35名（そのうち学習支援専任5名）がおり、専門から移動した教員と高校を退職した校長経験者から構成されている。

微分積分ができない、合成関数の微分が困難等の学力不足学生や数学を履修してこない非理系学生を文理融合化により取り込んでいる地方の理工系私立単科大学であり、大学全入時代における教育改革のモデル校であるという印象が強かった。

(2) 福井大学工学部の訪問調査（10月に理系初年次教育の質保証の講演会を開催）

平成25年9月20日に福井大学工学部を訪問し、学士力GPの取り組み責任者の本田知己先生、専門基礎教育担当の古閑義之先生と専門基礎教育の取り組みについて意見交換を行った。

工学部教育委員会の下部組織に工学部GPワーキンググループを発足させて、准教授クラスの若手教員がアイデアを相互に出し合い、これまで5件のGP採択があったとのことである。

専門基礎教育の実施体制は、改組により教育学部に所属した数学（3名）・物理（2名）の担当教員を工学部理工学科に配置換えを行うことにより

責任実施体制を一本化した。微分積分のプレースメントテストを入学時に実施して、入学時の成績下位の4割（GP採択後）を補習授業（ステップアップ）を受けさせる。工学部の微分積分・線形代数は理工学科の教員がすべて担当している。ただし、機械工学科は自学科教員が担当しているが、今後解消の予定である。また、補習クラスは、前・後期で開講し、前期のクラス分けはプレースメントテスト、後期は微積分の不可の学生を受講させる。

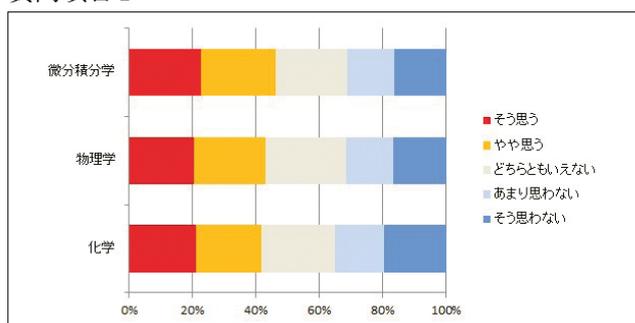
報告のまとめ

二つの大学とも冷静な危機意識と迅速な意思決定機構という共通項がある。入試広報も重要であるが、入学後の教育の取り組み及びその改革に非常に熱心である。その方策は各大学の置かれた特殊性により大学独自のものがあるが、大学教育GPがそのエンジンとなっており、GP終了後も様々な支援体制が準備されている。

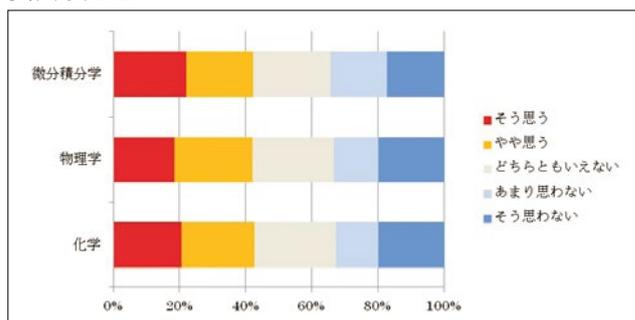
（謝辞：この訪問調査の経費に平成25年度岩手大学教育等支援経費を充当させていただきました。）

参考資料として昨年度の習熟度別クラス編成に関する調査結果を示す。（設問は5択であることに注意）

質問項目1



質問項目2



学生支援部門

部門長 栗林 徹

平成25年度前期駐輪指導の実施

構内環境改善と新生へ学内交通ルールの周知を図るため、4月22日(月)～26日(金)まで学生支援部門委員、学生議会運営委員会委員及び学生支援課が協働で正門、中央学生食堂前、館坂門、工学部北門付近で駐輪指導を実施しました。

また、今回は初めて自転車登録を行い、盗難防止や駐輪指導に効果が上がることを期待しています。

第56回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の開催

5月25日(土)に学生188名、教職員10名の参加を得て、第56回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を開催しました。

当日は好天の下、197名が完走を果たし、学部対抗の部は教育学部が、サークル対抗の部は陸上競技部がそれぞれ連覇を果たしました。



東日本大震災被災学生への入学料・授業料等の減免を実施

平成24年度に引き続き東日本大震災で被災した学生に対して、通常の免除枠とは別に入学料、授業料の減免と寄宿料の免除措置を行いました。

なお、昨年度から授業料免除手続きは、年間の免除額を一度に決定する方式で行われました。

平成25年度Let'sびぎんプロジェクトの実施

Let'sびぎんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1件あたり50万円を上限に経費を支援します。

今年度は、書類審査及び面接の結果、8件を採択しました。

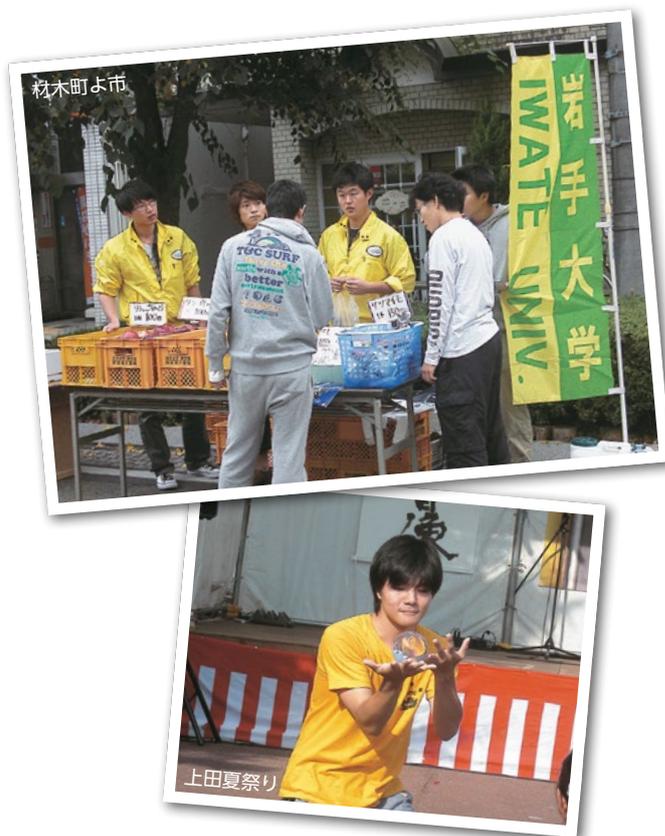
財団法人等から東日本大震災被災学生へ奨学金を給付

平成24年度に引き続き東日本大震災被災学生向けの財団法人等からの奨学金と岩手大学東日本大震災学生支援募金を原資とする奨学金を支給しました。

なお、支給対象者の決定は奨学金をまとめて一括審査で行うことから、被災程度が高い者から給付額が多い奨学金を受け取ることができました。

学生による地域貢献活動

材木町よ市、上田夏祭り、上田公民館の主催事業などでサークルや同好会が積極的にパフォーマンスや事業の支援を行うなど大学周辺への地域貢献活動を実施しました。



学生支援部門

学生特別支援室の活動

学生特別支援室運営会議では、修学上特別な支援を要する学生として今年度前期に15名、後期も13名を認定し、コーディネーターが中心となり、チューターの配置などの具体的な支援を行いました。

○オープンキャンパスで学生特別支援室を公開

平成25年8月6日(火)と10月19日(土)に行われたオープンキャンパスにおいて、学生特別支援室を公開しました。当日は、高校生や父母等が見学に訪れ、本学の障がい学生への支援内容を知る良い機会となりました。



部屋には、視覚障害者用として、拡大読書器1台、据え置き型パソコン(画面拡大機能付き)2台、聴覚障害者用として、筆談用磁気ボード1台、電子メモパッド1台、発達障害者用として、ノイズキャンセリングヘッドフォン1台の他、仕切カーテン、非常時通報システム、プロジェクター、冷蔵庫、電子レンジ、電気温水器、エアコン、空気清浄機、テーブルなどを備え、コミュニケーションルームとしての機能も有しています。

○保健管理センター教員と担任教員との連絡会での講演

平成25年9月13日(金)に行われた保健管理センター教員と担任教員との連絡会において、新村コーディネーターから発達障がいに関する講演と本学における発達障がい学生等への修学上の支援状況が説明されました。

○発達障がい学生への修学支援に関する学習会を実施

教職員を対象に発達障がいの正しい理解と対応についてを学ぶ機会として、外部の講師を招き、基礎的な知識と対応方法について、3回に渡り学習会を行いました。

学習会にはいわて高等教育コンソーシアムを構成する他大学からも多くの参加があり、障がいを持つ学生への修学支援の必要性が高まっていることを実感させる学習会となりました。

学習テーマ：発達障がいの理解と対応

1回目 平成25年7月31日(水)

2回目 平成25年8月2日(金)

3回目 平成25年8月7日(水)

講師：坂下史絵 氏

(岩手産業保健推進センター 臨床心理士)

場所：学生センターB棟1階 多目的室



併せて、学生特別支援室の活動状況について、新村コーディネーターから報告がありました。

キャリア支援部門

部門長 安田 準

平成24年度卒業生・修了生の進路状況

学部毎の進路状況は、次のとおりです。

	公務員	教員	民間	大学院
人社	62 (59)	4 (2)	110(109)	11 (17)
教育	28 (28)	80 (94)	89 (72)	24 (23)
工	42 (34)	4 (2)	167(208)	164(189)
農	45 (54)	1 (1)	107 (78)	49 (62)
合計	177(175)	89 (99)	473(467)	248(291)

* ()は平成23年度卒業生

就職率は全学(学部・大学院を含む)で94.0%であり、昨年度より3.5ポイント上昇しました。

学部別の主な就職先は、次のとおりです。

	主な就職先
人社	地方公務員, 国家公務員, (国)岩手大学
教育	公立学校教員, 地方公務員, (株)岩手銀行
工	地方公務員, 東日本旅客鉄道(株), 東北電力(株)
農	地方公務員, 全国農業協同組合連合会, 国家公務員

平成25年度上半期就職ガイダンス等

平成25年度上半期に実施した主な就職ガイダンスは、次のとおりです。

4月：個別・集団面接講座

5月：進路を考えるガイダンス、自己分析講座

6月：業界研究講座、面接対策講座、SPI模擬試験

7月：エントリーシート対策講座、就活身だしなみ講座(服装編)、就活身だしなみ講座(メイクアップ編)

また、9月には岩手大学企業合同説明会Ⅲを開催し、企業55社、学生72名が参加しました。



キャリア教育の実施

(1) キャリアガイダンスの実施

早い段階から「将来の目標」「働くこと」を意識付けることを目的として、今年度からキャリア形成をサポートするキャリアガイダンス「進路を考える」を新設しました。

上半期に実施した主なキャリアガイダンスは、次のとおりです。

5月10日、16日：進路を考えるガイダンス

6月20日：自己理解(他己分析と興味分析)

(2) キャリア教育科目の実施

また、本学では、2つのキャリア教育科目を開講しています。

一つは共通教育選択科目の「キャリアを考える」で、210名が履修し、「キャリアとは何か」「働くとは何か」など自ら考えることや様々な考え方を獲得することに基盤を置き、毎回、学生の意見や質問を講義の中で共有し合うというスタイルで進められました。

受講生のアンケート結果によると、受講開始時に80.6%の学生が将来に不安を抱いていると回答したが、受講終了後は59.7%の学生が不安を払拭できたと回答しました。

もう一つは、岩手県立大学と共同開催の集中講義「地場産業・企業論」では、22名(岩手大学19名)が履修し、達曾岩手県知事をはじめ、地元から多彩な講師を迎えて、産官学が協働で授業を行い、学生自らも地元企業の魅力や課題について調査研究・発表を行いました。

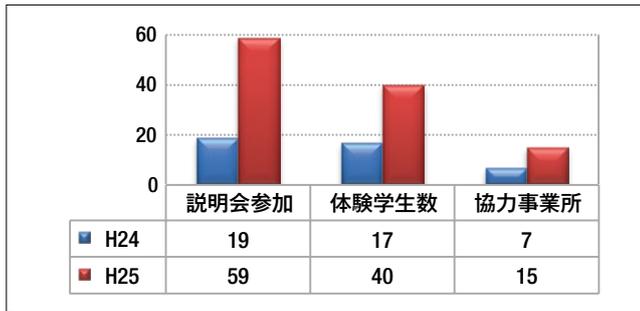


(3) ジョブシャドウ(1日職場観察)の実施

今年度は、15の事業所の協力を頂き、40名の学生がジョブシャドウを体験しました。また、ジョブシ

キャリア支援部門

シャドウの認知度を高めるため、高畑大学教育総合センター長とジョブシャドウ経験者との対談やチラシの配布、企業向けジョブシャドウガイドの作成など、さまざまな啓発活動を行いました。



今年度のジョブシャドウで特筆すべきことは、ジョブシャドウ経験学生によるコミュニティの結成が挙げられます。先輩学生がジョブシャドウを企画する側に立場を変えて積極的に参画し、リーダーシップを発揮しました。

(4) インターンシップの実施

今年度で3回目の実施となる岩手県立大学、盛岡大学と連携した岩手県内3大学連携インターンシップを夏季休業期間に実施しました。

過去3年間の参加者と受入事業所は、次のとおりです。

参加者：平成23年度51名
 平成24年度65名
 平成25年度99名

主な受入事業所

官公庁：岩手県、盛岡市、北上市役所 等
 民間：(株)岩手日報社、(株)川徳、(株)岩手ホテルアンドリゾート 等

県内の30を超える事業所に協力をいただき事業を実施しており、学生からの報告ではこの体験がその後のキャリア形成への得がたい機会となっています。

企業訪問の実施

9月末までに学部就職委員とキャリア支援課職員とが共同で21社を訪問しました。

6月24日 : 雫石町の3社
 7月9日 : 紫波町・花巻市の3社
 9月17-18日 : 八戸市・十和田市の10社

9月25日 : 花巻市・北上市の5社

キャリア支援課Twitterの運用開始

開始年月日：平成25年7月29日

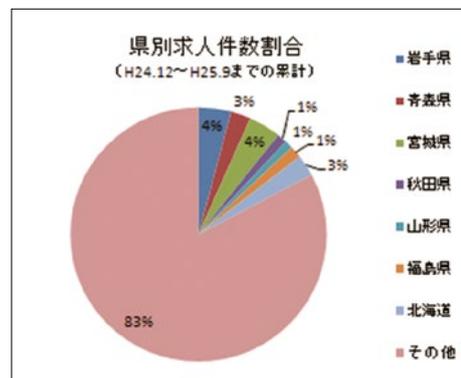
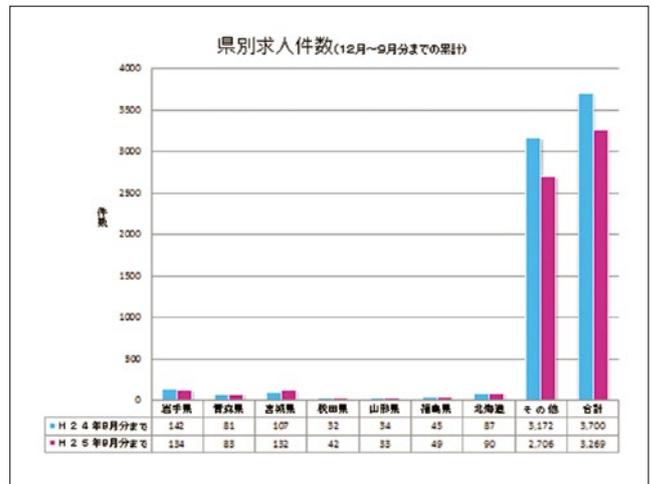
(9月末までの利用状況)

ツイート数：134件

(内訳) 求人情報	40件
公務員採用情報	26件
学外企業説明会等情報	17件
教員採用情報	15件
学内ガイダンス情報	10件
学内企業説明会情報	9件
学内企業合同説明会情報	6件
その他	11件

フォロー数：2件、フォロワー数：332名

平成25年度卒業・修了生向け求人件数



委員会及部門会議名簿

大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
センター長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	松林 城弘	人文社会科学部
入試部門長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井 隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川 倫明	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
副学部長又は評議員	吉村 泰樹	人文社会科学部
	遠藤 孝夫	教育学部
	船崎 健一	工学部
	古賀 潔	農学部
教務関係委員長	河田 裕樹	人文社会科学部
	遠藤 匡俊	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	佐藤 和憲	農学部
学務部長	渡部 徹	学務部

大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
センター長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	松林 城弘	人文社会科学部
入試部門長	高畑 義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井 隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川 倫明	工学部
学生支援部門長	栗林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田 準	農学部
専任教員	江本 理恵	大学教育総合センター
	岡本 崇宅	大学教育総合センター
学務部長	渡部 徹	学務部

委員会及部門会議名簿

入試部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	高畑 義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本 崇宅	大学教育総合センター
兼務教員	竹村 祥子	人文社会科学部
	土屋 明広	教育学部
	小林 宏一郎	工学部
	小藤田 久義	農学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	横山 英信	人文社会科学部
	竹原 明秀	人文社会科学部
	我妻 則明	教育学部
	大野 眞男	教育学部
	水野 雅裕	工学部
	一ノ瀬 充行	工学部
	木村 賢一	農学部
	御領 政信	農学部
入試課長	藤原 昇	学務部

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	横山 英信	人文社会科学部
専任教員		
兼務教員	横井 雅明	外国語分科会
	清水 茂幸	健康・スポーツ分科会
	藤本 忠博	情報基礎分科会
	菅野 文夫	思想と文化分科会
	神 常雄	心と表象分科会
	横山 英信	人間と社会分科会
	御領 政信	生物の世界分科会
	本田 卓	自然と数理の世界分科会
	成田 晋也	科学技術分科会
	佐野 宏明	環境分科会
各学部教務委員会	後藤 尚人	人文社会科学部
	菅野 文夫	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	伊藤 芳明	農学部
学務課長	浅沼 良庸	学務部

教育改善部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等	
部門長	武井 隆明	教育学部	
全学共通教育部門長	横山 英信	人文社会科学部	
専任教員	江本 理恵	大学教育総合センター	
兼務教員 (学部選出委員)	菊池 孝美	人文社会科学部	
	後藤 尚人	人文社会科学部	
	重野 和彦	教育学部	
	山崎 浩二	教育学部	
	小林 悟	工学部	
	土岐 規仁	工学部	
	濱上 邦彦	農学部	
	山田 美和	農学部	
	学務課長	浅沼 良庸	学務部

専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	松川 倫明	工学部
専任教員		
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	後藤 尚人	人文社会科学部
	阿久津 洋巳	教育学部
	嶋田 和明	工学部
	國崎 貴嗣	農学部
学務課長	浅沼 良庸	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	栗林 徹	教育学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	松岡 勝実	人文社会科学部
	ホール ジェームズ	教育学部
	吉原 信人	工学部
	吉川 信幸	農学部
学部選出教員	松林 城弘	人文社会科学部
	菊地 悟	教育学部
	海田 輝之	工学部
	宇塚 雄次	農学部
学生支援課長	今野 和男	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成25年4月1日)

	氏名	担当部局等
部門長	安田 準	農学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	内田 浩	人文社会科学部
	大河原 清	教育学部
	高木 浩一	工学部
	古賀 潔	農学部
キャリア支援課長	佐藤 祐一	学務部

erudio19

2013年11月発行



国立大学法人
岩手大学 大学教育総合センター

Iwate University : University Education Center
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

■入試部門	tel.019-621-6063
■全学共通教育部門	tel.019-621-6554
■教育改善部門	tel.019-621-6554
■専門教育等連携部門	tel.019-621-6554
■学生支援部門 (学生支援課)	tel.019-621-6058
■キャリア支援部門 (キャリア支援課)	tel.019-621-6059

■部門共通 fax.019-621-6928

電子メール uec@iwate-u.ac.jp
Webサイト <http://uec.iwate-u.ac.jp/>

